はじめに

田村 知子（連合教職実践研究科）

第 1 部では，本手引きで紹介する事例やその考察などの基本概念となるカリキュラム・マネジメントを学校全体で組織的に動かす意義，そのための考え方，具体的な方法論を示する。

まず，1 章では，各種の評価に重点をおきつつ複数のマネジメントサイクルのあり方を提示する。2 章では，カリキュラム・マネジメントの全体を構造モデルによって俯瞰し，教育活動は，多職種協働の「チーム学校」モデルに基づいた組織体制づくりや学校文化の醸成，学校外の諸要因と有機的に関連づけてこそ実質化することを示す。そのために，校長等管理職だけでなくミドル・リーダー層や一般の教職員が各々どのようなリーダーシップを発揮するべきか，しうるのかについて論じる。3 章では，いわゆるカリキュラム・マネジメントの「三側面」のうち，比較的取り上げられる機会の少ない，リソースの調達・活用に焦点を合わせている。人的，物的，予算的，情報的，そして何より重要な時間的リソースを，3 つの実践校ではどのようにマネジメントしているのかの具体を示し，そのポイントを示す。

第 2 部で紹介する 3 つの事例は，第 1 部で詳説する理論的組みを基盤として，各実践校の教員が，大学教員と一緒に取り組んだものである。各事例の成果や課題をより深く認識するためにも，第 1 部でとりあげている理論や枠組みへの理解を深めていただきたい。